

すべての子に 家庭学習習慣を

「わくチャレ」にて

ある学校のわくわくチャレンジ広場では、まず宿題をやってから遊ぶという習慣が高学年の児童を中心に自然にできていて、みんなで協力しながら学習を進めている姿に感激しました。

小さなうちから習慣化

宿題など家庭学習を児童生徒に課す目的は、主体的に学習をする習慣をつけたことの願いからです。学びとは、人から与えられるものではなく、自分から進んで学ぶ習慣を小さいうちからつけることです。それが真の学力につながります。

家庭内で時間の管理を

小学生ではゲームやテレビの時間、中学生ではメール等に係る時間が、家庭での時間の多くを占めつつあるのは問題であると感じています。時間の使い方については家庭内のルールづくりが大切です。

保護者の皆様にお願ひ

区内すべての学校で、すべての子どもに家庭学習の課題を与え、全員にやりきらせようとの取組を昨年12月から始めました。

保護者の皆様にお願ひです。家庭学習をしないからと、決して叱らないでください。すすんでやる姿が見られたら、ほめて認めてあげてください。

教育長 塩澤 雄一

「かつしかのきょういく」は年3回発行です。皆様でご覧ください。

上小松小学校 学校地域応援団が 文部科学大臣表彰を受賞!

平成25年12月、上小松小学校の学校地域応援団が、「優れた『地域による学校支援活動』推進にかかる文部科学大臣表彰」を受賞しました。

この賞は、子どもたちを健やかに育むために、学校、家庭、地域が連携協力し、社会全体の教育力向上に向けた取組を推進することを目的に設定された賞です。

平成23年度の木根川小学校学校地域応援団に続いて、区内で2校目の受賞となりました。

上小松小学校の学校地域応援団は、平成22年度の設定以来、これまでのPTAや図書ボランティアなどによる学校支援活動を継続するとともに、学習支援・教育環境整備・登下校時における安全確保への支援など活動の幅を広げています。
特徴的な学習支援活動

① かけ算九九の聴き手

ボランティアが、2年生の算数の授業中、かけ算九九の暗唱の聴き手となります。複数のボランティアが聴き手となることで、児童の暗唱する回数が増え、聴いてもらうために待つ時間が短くなります。また、児童が暗唱できたときに、ボランティアが褒めたり、認めたりすることが、児童の学習意欲の向上につながっています。

② 区民の方と連携した授業

学校と、区民で組織される「かつしか郷土かるた」普及・活用委員会作業部会とが連携し、3・4年生の社会科の授業を行っています。この授業の中で、ボランティアは、児童に「かつしか郷土かるた」を通して葛飾の歴史を教えるとともに、かるたの取り方についても丁寧に指導しています。



かるたの授業

活動の中核を担う地域コーディネーター

地域コーディネーターは、学校と話し合い、学校地域応援団の支援活動が円滑に進むように学校とボランティアをつなぐ役割を担う人です。また、自治町会や青少年育成地区委員会などの会議に出席し、学校地域応援団活動のPRやボランティアの募集を行うなど、学校と地域との協力関係も深めています。

ボランティアとの関係づくり

学校の先生は、ボランティアが学校支援活動に参加する際、児童に「応援団さん」と紹介しています。ボランティアと児童が顔見知りとなることで、学校内はもとより学校外でも挨拶を交わし合う関

係が築かれ、登下校時の見守りに対するボランティアの積極的な参加に結びついています。また、年度末には、学校、ボランティア、地域コーディネーター、行政職員を交え、活動の良かった点や反省点などについて意見交換を行っています。こうしたボランティアの意見を吸い上げる機会を設けることで、次年度もボランティアが積極的に学校支援活動に関わりたいと思えるような配慮をしています。

学校地域応援団とは

学校地域応援団は、これまでの地域と学校との協力関係を基盤として、さらに様々な人や団体がボランティアとして参加しやすい仕組みを作り、学校を核とした支援の輪を広げていくものです。

平成26年1月現在の設置状況は、小学校21校、中学校12校、計33校と着実に広がっています。

葛飾区では、地域ぐるみで子どもたちの教育を支え、豊かな教育環境を整備する『学校地域応援団』の、区立小・中学校全校への設置に向けて、引き続き取組を進めていきます。

地域教育課 ☎(5654)8589



表彰式での宇田川校長と後藤地域コーディネーター

この広報誌は、印刷用の紙にリサイクルできます。

編集 葛飾区教育委員会事務局 庶務課 ☎(5654)8449